

# 安易な転職で「年収250万円減」 他業種転職者が直面する厳しい現実

## バック・エックスが他業種に転職したホール正社員の給与・待遇の実態を調査

パチンコ業界の採用支援を手掛けるバック・エックスが、同社のサービスを利用したホール正社員の他業種への転職動機や転職後の収入などの実態をまとめた。業況の悪化が続くなか、他業種への人材流出は増加傾向にあるが、理想と現実の壁は想像以上に大きく、給与待遇が維持できずに生活に困窮したり、職場環境や仕事内容の変化に対応出来ずに再度業界への転職を相談してくる事例が増加するなど、リアルな現状が浮き彫りになっている。

### 経験や知識、キャリアのミスマッチ 安易な転職で年収が大幅ダウン

今年の3月から5月までの期間、バック・エックスに寄せられたパチンコ業界復帰相談者（元パチンコ正社員）の転職を考えた主な理由では、「経営状態や業界の将来性の不安から」が、全体の31%でトップ（表1）。次いで「時間の自由度を求めて」が25%で、「高年代での就業イメージが湧かない」「他業種への興味関心」「労務環境や福利厚生が整っていない」と続く。

長引く業界景気の悪化を背景に、将来を不安視して転職を考えるのは、ある意味では当然の流れともいえるが、今回、バック・エックスがまとめたレ

ポートでは、他業種に転職した人の多くが理想と現実のギャップに直面している様子が浮き彫りになっている。

表2は、転職先の主な業種や職種をまとめたデータで、1位は営業職、2位は飲食サービスとなった。慢性的な人手不足は全産業的なものだが、特に営業職は未経験者を含めて積極的に採用しているため、募集人数のパイが大きい。また、営業職ではインセンティブが高く、成果がダイレクトに給与に反映されるため、業界で従事していた際の給与水準を維持するための選択肢になっているようだ。

ほかにも土木建築系や運送、小売などの職種が続くが、その大半がパチンコ業界で培った経験やキャリアを活かした転職とはいえないものばかりだ。

そのため、慣れない仕事や環境で思うように業績を上げることができずに収入が不安定になり、結果、給与が大幅に減少してしまった例も少なくない。

そうした転職失敗組が、パチンコ業界に復帰したいと思った理由をまとめたものが表3。これを見ると、「経験が活かせない・収入大幅減」が全体の42%を占めている。今回の調査では、業界歴10年以上の店長経験者が他業界の営業職に転職し、以前の年収600万円から350万円と250万円にダウンした事例もあった。収入面に限らず、労務環境が以前より悪化してしまいう例も少なくない。

こうした実態に比例するかのよう

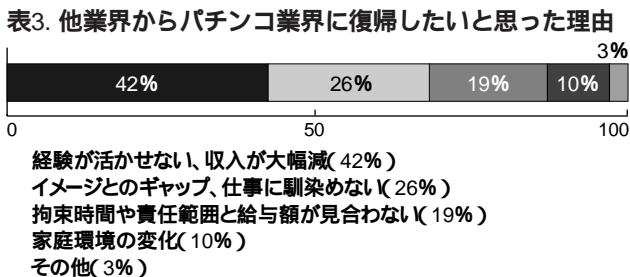


表4. 職種別の年収ランキング(130職種から上位30職種を抜粋)

ランキング	職種	平均年収(万円)
1	医師	1,233
2	航空機操縦士	1,192
3	大学教授	1,051
4	公認会計士、税理士	1,042
5	弁護士	1,029
6	大学准教授	862
7	記者	822
8	不動産鑑定士	778
9	歯科医師	757
10	大学講師	708
11	自然科学系研究者	674
12	高等学校教員	662
13	電車運転士	643
14	一級建築士	643
15	電車車掌	584
16	技術士	572
17	掘削・発破工	571
18	システム・エンジニア	551
19	航空機客室乗務員	544
20	薬剤師	544
21	発電・変電工	540
22	パチンコホール正社員	533
23	社会保険労務士	526
24	獣医師	525
25	旅客掛	524
26	自動車組立工	523
27	港湾荷役作業員	517
28	各種学校・専修学校教員	509
29	自動車外交販売員	508
30	診療放射線・診療エックス線技師	503

パチンコホール正社員の平均年収(2017年(平成29年))は、バック・エックスのサービスを利用したパチンコホール正社員の有効回答を元に算出

に、同社にはパチンコ業界への再就職に関する相談が増えているという。

### 安易な転職を防ぐために必須となる 「キャリアの棚卸し」と「正しい知識」

今回の調査結果からは「転職希望者が何に不安を感じているか」という点で、自社や自店の運営状況や方針、方向性の不透明さに漠然とした不安を感じているケースがほとんどだったということが浮き彫りになっている。こうした傾向は、店長以下のミドルキャリアやローキャリア層ほど強く、明確な理由がないままに転職を決めている例も散見される。

そのためバック・エックスでは、「キャリアの棚卸し」と「正しい知識」の重要性を指摘。自身のキャリアの強みや弱みを正しく把握するための「キャリアの棚卸し」をしないままに転職活動を行うことは、非常に危険なことだと注意を促しているほか、自身が身を置くパチンコ業界の状況をあらためて俯瞰してほしいという。

表4は、同社が全130職種の平均年収をまとめたものだが、この調査でパチンコホール正社員は、全体の22位という高いポジションに位置していることがわかった。

ランキングの1位から30位までの職種を見てみると、医師や公認会計士、

弁護士、不動産鑑定士など、有資格職種が多いのが特徴となっており、無資格でも高水準の給与が得られるという要素は、ほかの業種にはないホール正社員の特徴だ。仕事の充実感や満足度は給与だけで推し量れるものではないが、業界独自の特徴や優位性を正しく認識したうえで、次のステップを検討することは重要だろう。

業界の将来に対する漠然とした不安に加えて、少子化の影響や労働人口の減少を背景とした人材確保に向けた企業間の競争が、近年激化していることもパチンコホール正社員が他業界に流出する要因のひとつになっている。しかし、転職後の待遇や環境の変化に馴染むことができず、再度、パチンコ業界での就職を希望する人が増えているという実態があることは、しっかりと頭に入れておくべきだろう。

仮に他業種への転職を念頭に置いている場合であっても、業界企業を選択肢として除外しないなど、自身が求める条件や内容に見合った転職先を見つけるための客観的な判断力も求められる。

他業種での経験が業界企業への再就職の際に活かせるのならいいのだが、その多くは逆で、パチンコ業界で積み上げてきたキャリアが途絶えることのデメリットが大きいことも忘れてはならない。

他業種に転職したものの「満たされない」「むしろ悪化した」という経緯から業界への復帰希望に至る例が増えている。そのうち6割強が給与に関する理由で現実の厳しさを痛感していた

表1. 他業種への転職を考えた主な理由

理由	構成比
パチンコ市場の現況と将来への不安	31%
時間の自由度を求めて	25%
高年代での就業イメージが湧かない	19%
他業種(職種)への興味関心	16%
労務環境がホール企業より整っていない	6%
福利厚生がホール企業より整っていない	3%

表2. 代表的な転職先の業種と平均年収【実際に他業種に転職した際の年収から算出】

業種・職種	平均年収(円)
営業	2,992,000
飲食サービス	2,066,000
土木・建築	2,700,000
運送	3,833,000
小売	3,000,000
他業種転職後の平均年収	3,084,438円
他業種転職前の平均年収	4,935,170円
平均年収差	-1,850,733円